

新校舎の設計について

1 基本設計の検討状況

(1) 交流の促進

- ・回遊性を持たせ、周囲を広く見渡せる空間を創り出すことにより、子どもたちの動きに広がりを持たせる。
- ・特別教室棟として東西2棟を設置し、その間に木造の大屋根を架けて昇降口、図書室（メディアセンター）を吹き抜けの大空間とするとともに、2階には吹き抜け空間を四方から囲むように通路を設置することで、子どもたちの交流を創出する。

※赤色の実線が児童生徒の動線

(2) 安全性の向上

- ・2階建てになることで、通路で校舎どうしがつながり、避難経路が増え、屋外への移動もより短時間となる。

(3) 京北らしさという観点

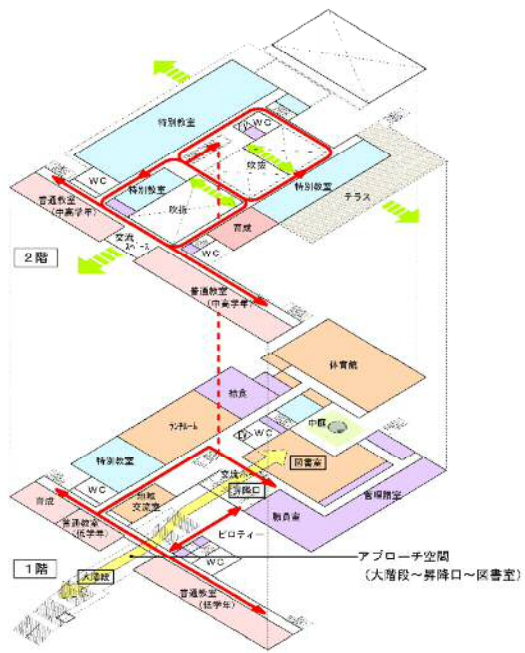
- ・木造の大屋根の現しなど、京北らしい木のシンボル空間を創り出すことができる。
- ・屋根の木造化部分を増やし、建物を鉄筋コンクリート造・一部木造（屋根）の混構造とすることで、「堅牢さ」とともに「木」のぬくもりが実感できる校舎とする。

(4) 正面玄関のシンボル性を強調

- ・大階段を上っていくアプローチエリアに時計台を設置し、シンボルとしての特徴をより際立たせる効果を備える。

2 外観イメージについて

- ・昇降口に吹き抜けの大空間を設けることで、学校正面の大階段からのアプローチエリアのシンボル性を高める。
- ・毎日登下校する子どもたちをはじめ多くの方が行き交う学校前広場については、エレベータシャフトを活用して校名板の掲示や時計台とすることで、吹き抜け空間につながる大階段付近から見た校舎の南側玄関口のシンボル性も高める。



[平面計画図]



[校舎正面アプローチ空間イメージ図]



[敷地南西からの鳥瞰図]



[ウッディー京北前交差点付近から見た外観イメージ図]